

第六回 市民会議 要旨

2007/03/31 「なごや循環型社会・しみん提案会議」実行委員会

日 時 : 平成 19 年 3 月 31 日 (土) 11 時 00 分 ~ 16 時 30 分

会 場 : 伏見ライフプラザ 4 階 講堂

参加者 : 市民 : 23 名

第六回会議の目的は、市民会議としてシナリオの修正を全体会議で検討してシナリオを確定すること、さらに「しみん提案」の実現にむけての課題やアイデアを出すことです。

最初に、これまでの市民会議の流れを確認しました (資料 1)。その上で、前回のグループ別討議の内容 (資料 2) を各グループの代表が補足も交えて発表しました。さらに、主催者が前回の班別討議の結果を俯瞰的に整理・確認し (資料 3)、シナリオ修正について会場全体で意見を出しました。討議は、生ごみの分別や方法を切り口に、焼却・有料化の問題等へ繋げていく形で展開されました。

<シナリオ修正についての意見>

- ・ シナリオ A を選択したからと言って市民・事業者主体を中心ではなく、行政も適宜協力し、部分的に主体的に行うことを盛り込んだ修正が必要。(特に生ごみ等)
- ・ 行政しか出来ない部分 (法律改正や最終処分場の取得保) は行政がやり、それを理解した上でしみんが関与していく事を確認。
- ・ 有料化⇒まずは、教育・人材育成が重要。また、ごみを減らす為の有料化には、市民レベルが理解できるようなマニュアルが必要。
- ・ 有料にする理由を明確にする。
- ・ 20~30 年先を見越した行政の将来構想が必要。行政として、将来の構想を常に考える機関を設けておく事が必要。
- ・ ごみは永遠に排出され続ける。最終処分場を今後も探さなければならないので、今後も必ず確保すると言う事も盛り込む。例) スーパー堤防なども検討対象に。
- ・ 焼却もプラスチックの問題に関して、埋立技術とプラスチック再生の技術も流動的な部分に関して方向性を決め、将来の技術に革新に左右される流動的な部分をいかに残す事ができるかが大切。

これらの修正意見を盛り込んだ修正シナリオに矛盾点が折り込まれていないか、主催者が専門家に検証を依頼した。その間に「しみん提案」を具体化する為にはどうすればいいか、考えられる課題とアイデアをグループ別に出して、全体会議で発表、各自が良いと思うアイデアへ投票しました。しかし、出されたアイデアに包括的なものから具体的なものまでレベルが異なったため、後で事務局がまとめて、提案に反映できるようにすることになりました。

専門家が修正シナリオの検証をした結果は確定したシナリオとして説明され (資料 4、資料 5)、会議全体で確認し、表現に対する修正意見を出しました。また、生ごみについては、経験や条件といった情報が不足し判断できず、残された課題だと確認。

最後に、これまでの会議結果を 4 月 15 日にステークホルダーとの合同会議に提案すること、また、今後「深堀の議論」や「220 万市民への発信」を通して、なごやに広く問題提起しつつ、「しみん提案」をまとめていくかを確認しました (資料 6)。